

特 249

323

昭和十四年度

# 會報

財團法人明治聖德記念學會



# 始



特 249  
323

本會役員

×印は理事他は評議員

- |        |        |       |
|--------|--------|-------|
| 會長     | ×林博太郎  | ×加藤玄智 |
| ×橋本勝太郎 | ×井田磐楠  |       |
| 監事     | ×高橋是賢  | ×宮川仁藏 |
| ×石川岩吉  | ×白鳥庫吉  |       |
| ×服部宇之吉 | ×草鹿祜吉  |       |
| ×阿部信行  | ×深作安哲  |       |
| ×青木菊雄  | ×榎原安坦  |       |
| ×徳川達孝  | ×深作安坦  |       |
| ×大山義信  | ×三藤庸也  |       |
| ×岩田義順  | ×三上參次  |       |
| ×戸村理順  | ×岡上參世  |       |
| ×藤崎三郎助 | ×關屋貞三郎 |       |
| ×望月信亨  | ×大島雅太郎 |       |
| 伊藤浩藏   | 鈴木孝雄   |       |

財團法人明治聖德記念學會設立趣意書

我れ等夙に世界の諸宗教を科學的に攻明することを以て自ら任ずると同時に又日本宗教の研究に従事すること茲に年あり、深く思を神道及佛道と儒佛二教の交渉關係又は我が獨特なる國體、武士道等の由來に潜むるに及び、是れ等日本の教學殊に神道が我が建國の大本國民思想の淵源を成せるもの多きを觀取し、その科學的に精確なる研究が又現代國民の自覺忠君愛國心の涵養上、一日も缺くべからざる所以を感ずること頗る痛切なるものあり、而して我邦に於ける是等教學研究の大勢の眞個に微々として振はざるは識者の夙に認むる所、之れに反して外人が日清日露の兩戰役以來我が戰勝の眞原因を採らんと欲して先づ武士道を研究し進みて神道の攻明に入り、雖い佛敎儒敎等我國の諸有精神の文明の研鑽に従事するもの日に多きを加ふる現狀に接見するに至りては、事に斯學の研究に従ふ者徒に苟且偷安、臥榻の下晏然他人の研鑽を容るゝに忍びざるものあり、竊に推へらく、彼れ外人の日本研究に熱心なるは固より不可なく眞に我れに在りては他山の石に外ならずと雖も、畢竟日本を眞に能く理解し得るものは獨り日本人あるのみなれば、日本研究は日本人の手に由りて、當然大成せられざるべからざるものなりと、別や明治維新の開國と與に、俄然襲來せる外來思想の影響と競争の餘勢、我が領土の擴大に伴へる交通往來の類案と、經濟事情の激變とは、現代思潮の産兒たる青年子女をして、知らず識らず我が建國思想の大本と、國民性の特色とを忘れしめ、輕佻浮薄、歐米思想の皮相のみを學びて、以てその物質的文明の餘蘊に耽せられんとするに至れり、この秋に方りて我が神道を初め、儒佛の二教等に至るまで、凡て我精神文明を構成せるもの、神髓と特色とに關し、科學的に精確なる研究を遂げ、その由りて來る所以とその眞相とを、現代の智識に照して考明することを得ば、今やその餘弊に苦しむつゝある我が現代思想界の動搖を救治し、國民道徳の涵養上、將た青年子女の精神教育上に資するもの決して鮮少なからざるべきは、我等の信じて疑はざる所、斯くしてその研究結果は、以て之を海外に紹介し、之によりて日本に關する外人の誤解を氷解せしめ、彼我意志の疏通を計る上に於ても亦十分の實効あること、期して待つべきなり、時偶々明治聖帝の登遐に遭ひ奉り全國民を擧げて仲々の至情禁ずる能はざるものあり、貴賤老少各其分に應じて、争ひて哀悼の赤誠を捧ぐ、是れ我等聖帝洪恩の萬一に酬いたてまつらんとするの微衷、此に新に明治聖德記念學會なるものを組織し、内にありては深く日本の精神文明を研究して、能く科學的の精緻透徹を期すると同時に、外に向ひては其の研究結果を内外文の紀要に公表して、彼れ外人をして我日本の眞相を會得せしむるに至るの一助たらしめんことを切望して已まざる所以なり、我等固より淺學菲才徒に任重くして前途の遠きを思ふ、偏に内外有志の協賛を仰ぐ。

大正元年十一月三日  
明治聖帝天長の佳辰に於て



## 本會沿革略

本會は大正元年 明治聖帝不朽の聖德を永遠に記念せんが爲に、二千有餘年の我が國固有の精神文明を、現代學術の進歩せる批評的方法に依つて、根本的に究明し、内に向ひては我が邦人の自覺を喚起せしむると同時に、外に向ひては其の研究結果を外國文を以て發表し、以て眞の日本を海外にも紹介するを目的とせる日本學會にして、大正元年 明治聖帝の御記念事業として起れるもの、爾來毎月の講演會に、各地の公開講演會に、本會研究所出版の研究報告及紀要に、將又内外文を以てせる各種の單行本に著々本會の目的遂行に努力し來れり、本會の研究所には、加藤玄智、長井眞琴、久松潜一の三文學博士鳥羽正雄溝口駒造松下松平諸士あり、常に本會の研究に當り、時に泰西及び南洋に研究者を派遣し、又本會の研究所より出版せる我が古典、古語拾遺の英又刊行の如き又羅馬字を交へたる神道書目録出版の如きは、東西の日本學會に寄與せる本會の一大業績なり、大正十一年宮内省を経て御手元金の恩賜を拜戴したるのみならず、各宮家の御下賜金を拜受せるは本會の感激に禁へざる所本會は目下褒章條令に依れる公益團體にして、基金約十萬圓、以て國家的にまた國際的に聊か微力を効せるもの、如上本會の事業に對し、廣く内外有志の翼賛を切望す。

## 財團法人明治聖德記念學會昭和十三年度諸報告

(自一月三十一日 至十二月三十一日)

### (壹) 事業報告

#### 一 講演會—東京及地方

#### (以) 例會研究講演會

(自第二四四回 至第二五三回)

#### 第二四四回

日本文學に於ける情と理

東京帝大教授

久松潜一

#### 第二四五回

上代祭祀の考古學的研究

—南豆發見新資料を中心として—

國學院大學講師

大場啓雄

#### 第二四六回

馬來の竹取物語

會員 宮武正道

南米考古學の調査旅行より歸りて

文學博士 鳥居龍藏

近世佛教神道の歸趨

第二四七回

東京帝大講師 小林健三

古事記日本紀及舊事紀の比較研究

第二四八回

國學院大學教授 佐伯有義

橘三喜著、一宮巡詣記第一卷全文の發見

第二四九回

本會研究所囑託 松下松平

回教徒問題に就いて

駒澤大學教授 大久保幸次

第二五〇回

武家時代文學と日本精神

東京高等學校教授 野村八良

第二五一回

最近國際的關係に現はれたる時代的特徴

東京女子高等師範學校教授 文學博士 内藤智秀

余の最近北京の見聞

文學博士 小柳司氣太

第二五二回

明治開國以來の思想の推移に見る國民性

前司法次官 皆川治廣

明治天皇の御物奉祀の神寶神社

——故由利公正子の創立——

文學博士 加藤玄智

第二五三回

(慈雲尊者讀印會協同主催)

我れ慈雲尊者を知らず

前豊山派管長 富田數純

愛知縣安城町の明治川神社の末社伊佐雄神社の生祠

文學博士 加藤玄智

(呂) 特殊研究講演會

(昭和十三年七月四日(月) 午後三時神田區湯島町小學校)

——敷島會協同主催——

國民精神總動員下の指導原理より見たる神社問題

文學博士 加藤玄智

(波) 會員本尊美翁追憶講演會

昭和十三年一月卅日(日) 午後二時半東京神田學士會館

哀悼の辭

我れ將に兜を脱がんとす

本尊美翁の日本研究と其人格

本尊美先生性格の一面

本尊美翁を憶ふ

友人本尊美博士と王道

右追憶講演後翁の遺著遺物展覧及説明午後六時有志者追憶晚餐會

(仁) クライブ、ボンソンビ氏來朝歡迎會

十一月十日(木)午後六時當時新に米朝中の同氏を迎へて故伯父本尊美翁藏書寄贈の挨拶を兼ね林會長より同氏の爲め小宴を神田學士會館に開催せり

(保) 地方講演

(昭和十三年十一月廿六日(土)午後一時)  
大阪府四條原高等女學校

開會辭

須く神社信仰に徹すべし

會員 四條原高等女學校長 牧田宗太郎  
文學博士 加藤玄智

研究茶話會話題

司會者紹介の辭

本邦独自の宗教々育

會員 四條原神社宮司

文學博士 加藤玄智  
足立 茂

二 研究所研究要目

- (1) 明治以後に於ける神道書籍目錄編輯
- (2) 度會常彰著「參詣記註釋」の研究
- (3) 坂翁著「大神宮參詣記」の研究と英譯

三 本年度研究擔任及輔佐

研究所長	文學博士	加藤玄智
會員	澤洲シドネ大學教授	サドヲ博士
研究所員	東洋大學講師	溝口駒造
會員	神宮皇學館講師	岡田米夫
會員		安津素彦
會員	國學院大學講師	伊藤謙一郎
學生	技師	加藤誠平

研究所員	東京帝國大學教授	長井真琴
同	東京帝國大學教授	久松潜一
會員	東京帝國大學教授	松野清一
會員	本會研究所嘱託	小野清一
會員		梅田義彦
會員		鈴木健郎
會員	女子大學校教授	加藤武島又次郎

四 昭和十三年度出版物

(甲) 定期刊行物

- (イ) 紀要第四十九卷及第五十卷(自初卷計五十卷)
- (ロ) 同別冊文献蒐載第二十三卷及二十四卷(度會常彰著參詣記纂註)二冊
- (ハ) 會報(昭和十三年度)

(乙) 臨時刊行物

- (イ) 加藤玄智監修神道書籍目錄(全一冊單行本)
- (ロ) 加藤玄智著、生祠の御話(全一冊單行小本)
- (ハ) 袋中著、琉球神道記(全一冊單行本)
- (ニ) 校本古訓古語拾遺(重版)

五 雲上献本

- (イ) 紀要(四十九卷及五十卷)及別冊文献蒐載(參詣記纂註)第二十三卷及二十四卷計貳冊
- (ロ) 生祠の御話

(貳) 處務報告

(一) 處務の概要

一、役員に關する事項

昭和十三年度末現在役員

役名	氏名	就任年月日	擔任職務	手當	略	歴	備考
理事	林 博太郎	大正九年三月六日	會長	無	貴族院議員	文學博士	
同	橋本勝太郎	同	同	同	陸軍中將		
同	藤崎三郎助	大正十五年七月十一日	會計	同	實業家		
同	加藤 玄智	大正九年三月六日	常務	同	元陸軍士官學校及東京帝大教官	文學博士	
同	井田 磐楠	同	同	同	貴族院議員	陸軍少佐	
同	白鳥 倉吉	同	同	同	東京帝大名譽教授		
同	宮川 仁藏	同	庶務	同	陸軍中佐		
同	高橋 是賢	同	同	同	貴族院議員子爵		
同	草鹿砥祐吉	大正十五年四月十二日	同	同	元臺灣製糖會社重役		
監評議員							

評議員	開會月日	會議事項	會議の結果
石川 岩吉	昭和九年一月廿八日	宮内官	可決
服部 字之吉	大正九年三月六日	東京帝大名譽教授	可決
阿部 信行	昭和四年一月廿八日	文學博士	可決
青木 菊雄	昭和六年一月廿五日	陸軍大將	可決
徳川 達孝	大正九年三月六日	實業家	可決
大山 柏	同上	貴族院議員伯爵	可決
岩田 義信	昭和五年一月廿六日	陸軍大佐	可決
戸村 理順	昭和九年一月廿八日	實業家	可決
望月 信亨	昭和五年一月廿六日	大正大學教授文學博士	可決
深作 安文	昭和四年一月廿八日	元東京帝大教授文學博士	可決
幣原 坦	大正十四年一月廿五日	元臺北帝大總長文學博士	可決
佐藤 庸也	大正九年三月六日	陸軍大佐	可決
三上 參次	同上	東京帝大名譽教授文學博士	可決
岡 百世	昭和四年一月廿八日	三井文庫主任	可決
關屋 貞三郎	昭和九年一月廿八日	貴族院議員	可決
大島 雅太郎	昭和五年一月廿六日	實業家	可決
伊藤 浩藏	昭和十三年一月卅日	元司法官	可決
榎 哲	大正九年三月六日	實業家	可決

二、役員會に關する事項  
(一) 理事會

開會月日	會議事項	會議の結果
一月十六日	昭和十二年度決算及同十三年度豫算の件	可決
一月卅日	特別會員伊藤浩藏を評議員に推薦の件 本會設立廿五周年記念事業實行委員會よりの寄附金貳千貳百八拾壹圓七錢也を神道書籍目錄編纂を主とする經常費に、殘額壹圓拾七錢也を神道書籍目錄編纂を主とする經常費に、殘額壹圓千圓は次年度の同様の目的に使用する件	可決
二月十二日	神道書籍目錄編纂及研究所人事に關する打合	可決
三月三日	三菱重工業債券金參千圓購入の件	可決
四月廿七日	庶務打合	可決
五月十七日	同上	可決
六月十四日	同上	可決
七月九日	同上	可決
九月廿二日	昭和十四年度豫算作成上の打合 大阪府下へ地方講演、伊勢京都へ研究調査出張の件	可決
十月十三日	庶務打合	可決
十一月廿二日	同上	可決
十二月四日	昭和十四年度豫算作成	可決

(二) 評議員會

開會月日	會議事項	會議の結果
一月卅日	一、昭和十二年度事業報告 二、昭和十二年度收支決算報告 三、昭和十二年度經常費剩餘金壹千貳百五拾六圓貳拾八錢也を昭和十三年度の經常費として使用する件 四、昭和十三年度經常費豫算の件	以下凡て理事より提出せし原案通り可決

三、契約に關する事項

契約月日	相手方	契約の概要
二月一日	三秀舎	紀要第四十九卷及附冊(文獻蒐載第廿三卷)八五〇部印刷、代金五百參拾圓也
六月一日	三秀舎	紀要第五十卷七八〇部及附冊(文獻蒐載第廿四卷)八二〇部印刷、代金五百拾圓也
一月五日	島田印刷所	會報八〇〇部印刷、代金八拾圓也

九月廿日 三秀舎 「生祠の御話」五〇〇〇部印刷、代金壹百六拾圓也

四、寄附金に關する事項

寄附目的	寄附者	申込金額	領收金額	備考
基金	奥村多喜衛	五〇〇〇	五〇〇〇	
同	金光眞整	五〇〇〇	五〇〇〇	
同	台灣神社々務所	五〇〇〇	五〇〇〇	
經常費	大島雅太郎	一一〇〇	一一〇〇	
同	服部奉公會	一、〇〇〇〇	一、〇〇〇〇	神道書籍目錄出版費の中
同	島 連太郎	二二二〇	二二二〇	同上
同	田島德音	一〇〇〇	一〇〇〇	
同	崎山刀太郎	一〇〇〇	一〇〇〇	
同	淵野平吉	五〇〇〇	五〇〇〇	
同	中野 實	五〇〇〇	五〇〇〇	



同	同	同	同	同
千屋増之助	三河豊三郎	草鹿砥祐吉	福島喜三次	小泉來兵衛
五〇〇〇	五〇〇〇	二四七〇	五〇〇〇	二〇〇〇
五〇〇〇	五〇〇〇	二四七〇	五〇〇〇	二〇〇〇
		カード入箱壹箇代		「生祠の御話」編輯及出版費

五、昭和十三年度收支決算報告 (昭和十三年十二月卅一日調)

歳入  
 經常部 金壹萬貳千七拾七圓參拾貳錢也  
 臨時部 なし  
 合計 金壹萬貳千七拾七圓參拾貳錢也

歳出  
 經常部 金壹萬六百貳拾九圓貳拾九錢也  
 臨時部 なし

合計 金壹萬六百貳拾九圓貳拾九錢也  
 歳入歳出差引  
 殘金 金壹千四百四拾八圓參錢也  
 翌年度に繰越

六、昭和十三年度收支決算 (△印は減額を示す)

歳入 經常部

科	款	項目	豫算額	決算額	比較増減	摘要
第一、財産より生ずる収入	第一、基本財産より生ずる収入	一、基本財産より生ずる収入	三、五七〇〇〇	三、六八〇三七	△一〇三三七	
		二、加藤玄智博士學績記念會寄附金	三、四九五〇〇	三、五九四五〇	九九五〇	
		三、會費	七五〇〇	八五八七	一〇八七	
第二、會費	一、會費	一、會費	一、〇〇〇〇〇	一、一六三〇	△一六三〇	
		二、會費	一、〇〇〇〇〇	一、一六三〇	△一六三〇	
第三、寄附金	一、本會廿五周年記念會寄附金	一、本會廿五周年記念會寄附金	二、一八二七	三、一〇八八七	△八七七〇	
		二、本會廿五周年記念會寄附金	一、二八二七	一、二八二七		

科	項目	豫算額	決算額	比較増減	摘要
第四、繰越金	一、繰越金	1,000.00	1,187.70	187.70	
	二、一般寄附金		1,187.70		
第五、雑収入	一、出版物分讓代	1,256.28	1,256.28		
	二、銀行預金利子	1,601.00	1,905.50	304.50	
	三、振替貯金利子	1,500.00	2,700.00	1,200.00	神道書籍目録分讓代多きに因る
經常部合計		1,000.00	2,368.78	1,368.78	
經常部合計		9,788.45	11,077.33	1,288.88	
經常部合計		9,788.45	11,077.33	1,288.88	

科	項目	豫算額	決算額	比較増減	摘要
第一、出版費	紀要第四十九及五十卷並別冊及會報發行費	3,450.00	4,111.91	661.91	
	臨時印刷出版費	1,300.00	1,089.55	△210.45	特別寄附金に依る臨時出版物の爲
	神道書籍目録出版費	1,500.00	3,464.11	1,964.11	
	研究費手當及謝禮	2,000.00	2,669.55	669.55	
	研究費手當及謝禮	4,400.00	4,664.11	264.11	研究所長特別研究費支給に因る

科	項目	豫算額	決算額	比較増減	摘要
第三、交通費	一、旅費及車馬賃	6,000.00	6,385.81	385.81	
	二、通信費	100.00	1,127.00	1,027.00	
	三、電話料	4,000.00	4,057.61	57.61	
第四、會合費及接待費	一、會合費及接待費	1,100.00	1,955.00	855.00	
	二、會合費	200.00	266.11	66.11	
	三、會合費及接待費	200.00	266.11	66.11	
第五、需用費	一、新聞雜誌書籍及寫真費	9,000.00	1,101.57	△7,898.43	
	二、備品消耗品及雜費	1,500.00	1,473.00	△27.00	
	三、備品消耗品及雜費	800.00	865.00	65.00	
第六、豫備費	一、豫備費	7,500.00	7,816.00	316.00	
	二、借家賃瓦斯水道電燈料其他	6,845.00			
經常部合計		9,788.45	10,691.91	903.46	
經常部合計		9,788.45	10,691.91	903.46	

七、財産増減の事由

(負債なし)

種別	總額		増減額	増減部数	増減事由
	本年度	前年度			
什器雜品	二七六四〇	二五〇〇〇	二六四〇 <sup>増</sup>	二	新什器購入の爲
圖書	一、五九〇三〇	九三三六〇	五六七〇 <sup>増</sup>	四五七	本尊美遺族よりの寄附及新購入の爲
有價證券	四二、八四七二四	三九、八四七二四	三、〇〇〇〇 <sup>増</sup>		三菱重工業債券新購入の爲
預金	五三、一五三三三	五七、一六三五六	四、〇一三 <sup>減</sup>		債券購入に因る
現金	八五二七	一四四六	七〇七 <sup>増</sup>		
合計	九七、〇二五二六	九七、〇二五二六	九、九四三 <sup>増</sup>		

八、財産目録 (昭和十三年十二月三十一日調)

一、資産

合計、一金九萬六千八拾五圓七拾四錢也  
 内基本財産、一金九萬壹千參百參拾七圓七拾壹錢也  
 普通財産、一金四千七百四拾八圓參錢也  
 外に普通財産備品圖書の價格、一金壹千八百六拾六圓七拾錢也

(一) 備品及圖書

種別	種別		増減額	増減部数	増減の事由
	本年度	前年度			
什器雜品	二七六四〇	二五〇〇〇	二六四〇 <sup>増</sup>	二	新什器購入の爲
圖書	一、五九〇三〇	九三三六〇	五六七〇 <sup>増</sup>	四五七	本尊美遺族よりの寄附及新購入の爲

(二) 有價證券

資産種別	種別	取得年月日	額面金額	記録價格	利率	備考
基本財産	第三回 富士電力社債	昭和十二年四月四日	10,000.00 <sup>圓</sup>	九,九九〇〇〇		

計	同	同	同	同	同	同
	第二回 日本電力社債	第一回 日立電力社債	第二回 大連汽船社債	第五十三回 滿鐵社債	第五十四回 滿鐵社債	三菱重工業社債
	昭和十年五月二十五日	昭和九年十二月九日	昭和九年十二月九日	昭和十二年九月五日	昭和十二年十二月廿四日	昭和十三年三月十五日
	五、〇〇〇〇〇	一〇、〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	三、〇〇〇〇〇	四三、〇〇〇〇〇
	五、〇〇〇〇〇	九、九六〇〇〇	五、〇〇〇〇〇	四、九八七五〇	三、〇〇〇〇〇	四二、八四七一四

(三) 預金		資産種別	種類	預入先	券面額又は 高	利率	備考
同	同	基本財産	振替貯金	貯金局	1000		
同	同		信託預金	安田信託	10,000.00		
同	同			三井信託	15,000.00		
同	同			三菱信託	10,000.00		

計	普通財産		同	
	普通財産(加藤玄智學識記念會寄附)	普通財産(本會廿五年記念會寄附)	定期預金	特別當座預金
	同	同	同	同
	同	同	同	同
				三菱銀行
				五三、〇〇〇〇〇
				四八〇〇七
				一、三六二八五
				二、三〇〇〇〇
				一、〇〇〇〇〇
				五三、一五三四三

(四) 現金		資産種別	種類	金額	備考
計	普通財産		現金	八五二七	
				八五一七	

九、會員の異動状況 (昭和十三年十二月卅一日現在)

會員の種類	本年度會員數	前年度會員數	増減	摘要
正會員	二〇八	二一六	八	
特別會員	二三一	二二四	七	
終身會員	二〇二	二〇二		
協賛會員	五	五		
合計	六四六	六四七	一	

昭和十四年度收入豫算

(一)	歳入	(甲) 經常部 一金七千參百五拾圓也	(乙) 臨時部 無し
(二)	歳出	(甲) 經常部 一金七千參百五拾圓也	(乙) 臨時部 無し
(三)	歳入歳出差引	殘金 無し	

昭和十四年度收支豫算

歳入 經常部

(▲印ハ減額ヲ示ス)

科	目	項目	豫算額	前年度 豫算額	増減	摘要
第一財產ヨリ生ズル收入	一、基本財産ヨリ生ズル收入		三、六九〇〇	三、五七〇〇	一二〇〇	有價証券増加セシニヨル
			三、六九〇〇	三、五七〇〇	一二〇〇	
						第五十三回滿鐵社債利子 二〇五、〇〇
						第五十四回滿鐵社債利子 二〇五、〇〇
						第三回富士電力社債利子 五〇〇、〇〇
						第二回日本電力社債利子 二三五、〇〇
						第二回日立電力社債利子 四五〇、〇〇
						第二回大連汽船社債利子 二三五、〇〇
						三菱重工業社債利子 二二九、〇〇
						三井信託預金利子 五三五、〇〇
						三菱信託預金利子 共〇、〇〇
						安田信託預金利子 三八〇、〇〇

科	目	項目	豫算額	前年度 豫算額	増減	摘要
第二會費	一、會費		一、〇〇〇〇	一、〇〇〇〇		
第三寄附金	一、神道書籍目錄出版指定寄附金		一、〇〇〇〇	一、〇〇〇〇		指定寄附金減少セシニヨル
	二、本會二十五周年記念會寄附金		一、〇〇〇〇	一、〇〇〇〇		定期預金より受入
	三、一般寄附金		一、〇〇〇〇	一、〇〇〇〇		
第四繰越金	一、繰越金		一、二〇〇〇	一、二五二八	▲五二八	
第五雜收入	一、出版物分讓代		三五〇〇	一、六〇〇〇	▲一、二五〇〇	出版物減少セシニヨル
	二、銀行預金利子		一〇〇〇〇	一〇〇〇〇		
	三、振替貯金利子		一〇〇	一〇〇		
經常部計			七、三五〇〇	九、七〇八四	▲二、三五八四	
歳出合計			七、三五〇〇	九、七〇八四	▲二、三五八四	

歲出 經常部

(▲印ハ減額ヲ示ス)

科	款	項目	豫算額	前年度 豫算額	増減	摘要
第一	出版費	一、紀要第五十一、五十二卷並ニ別冊及會報出版費	一、三五〇〇〇	三、四五〇〇〇	▲二、一〇〇〇〇	神道書籍目錄出版完了ノ爲
		二、臨時印刷出版費	一、二〇〇〇〇	一、三〇〇〇〇	▲一〇〇〇〇	
		三、神道書籍目錄出版費	一、一五〇〇〇	一、五〇〇〇〇	▲二、〇〇〇〇〇	
第二	研究費、手當謝禮	一、研究、講演其他ノ手當及謝禮	四、〇〇〇〇〇	四、四〇〇〇〇	▲四〇〇〇〇	地方講演等臨時ニ施行スル事業節約ノ爲
		二、神道書籍目錄特別整理手當	三、〇〇〇〇〇	三、四〇〇〇〇	▲四〇〇〇〇	
		三、旅費及車馬賃	一、〇〇〇〇〇	一、〇〇〇〇〇	▲	
第三	交通々信費	一、旅費及車馬賃	六、二〇〇〇	六、〇〇〇	▲一〇〇〇〇	
		二、通信費	一、六〇〇〇	一、〇〇〇〇	▲六〇〇〇	
			三五、〇〇〇	四〇、〇〇〇	▲五、〇〇〇	

科	款	項目	豫算額	前年度 豫算額	増減	摘要
第四	會合及接待費	一、會合及接待費	二〇〇〇〇	二〇〇〇〇	▲	神道書籍目錄編纂ノ爲
		二、新聞、雜誌、書籍及寫真費	二五〇〇〇	一五〇〇〇	▲一〇〇〇〇	
		三、備品、消耗品及雜費	一〇〇〇〇	八〇〇〇	▲二〇〇〇	
第五	需用費	一、備品、消耗品及雜費	七五〇〇〇	七五〇〇〇	▲	
		二、借家賃、瓦斯水道、電燈料其他	八〇〇〇	六八四五	▲一一五五	
		三、豫備費	八〇〇〇	六八四五	▲一一五五	
第六	豫備費	一、豫備費	七、三五〇〇〇	九、七〇八四五	▲二、三五八四五	
		二、豫備費	七、三五〇〇〇	九、七〇八四五	▲二、三五八四五	
歲出合計			七、三五〇〇〇	九、七〇八四五	▲二、三五八四五	

十會員名簿

(昭和十四年二月十日調)

井上哲次郎	井田磐楠	岩崎小彌太	岩崎久彌	今村繁三	岩田義信	池田真基	石丸志都磨	今村榮吉	出雲大社々務所	石井鹿之助	稻垣孝照	今泉定助	入澤宗壽	伊東教順		
井上國雄	伊藤倉次郎	池田典雄	池田安郎	伊與田次郎	伊藤卯一	一木正二	石黒七三郎	石黒廣一郎	石川宗一郎	石崎政一郎	茨木基忠	石川岩吉	伊藤重夫	飯田義資	岩崎保治	石橋房三
井上信彦	岩垣真我	稻村正寛	今井信之八	伊藤忠太	伊藤良吉	磯部節吉	生熊内節	伊波普猷	石川英朗	井出浩藏	伊藤伊代	石井伊庄	伊藤謹一	伊藤誠一	一條實孝	
飯田鴻一	飯田秀真	石塚龍學														
速水混	ハ. O. Pabst	鳩田比古	原田敏明	林原隆賢	林田壽賢	早川文治	服部捨郎	長谷川速水	バ. D. Perkins	濱田圓應	ハミツチユ	Horst Hamnitzsch				
西村真次	西島千種	新田邦建	西澤頼應	日東寺俊	西川義方											

堀山日干一	堀岡文吉	北條尊善	本多忠綱	本間光正	G. Bonmarchand	祝宮勝	寶登山神	H. Bohner	別府哲二郎	Thomas Baly	C. W. Hepner
遠山市郎兵衛	德川建孝	常磐井亮猷	戸村理順	德大寺實厚	德重浅吉	鳥羽正雄	豊田珍彦	獨逸亞細亞協會	獨逸亞細亞協會	Deutsche Mor. Genlaendische Gesellschaft	富岡宣永
德川正雄	千村長治郎	陳啓一	李丸春								
大倉條馬	大倉山伯	大倉百世	岡田祐二	岡田裕順	乙部古志	及川志融	大田幸三	小川幸三	大田幸三	小川幸三	大田幸三
小笠原長生	奥田為熊	尾上八郎	太田黑九彦	岡部三郎	奥藤多藏	小野清一	奥村多喜衛	尾崎澤次郎	大堀清三郎	岡崎武造	大田清三郎
岡田米夫	小柳司氣太	岡田昇齋	尾上久二								



加藤八郎右衛門  
川崎榮助  
嘉納純  
川崎武之助  
河合操  
河西惟一  
柏尾具包  
加藤市衛  
龜岡豐二  
川上正三  
河野喜好  
川崎正一  
加藤精一  
勝又精  
賀茂百樹  
角野武一  
兼重新一  
勝川全道  
龜井寅雄  
金澤庄三郎  
鎌田春雄

川原百之  
井眞澄  
田良賢  
金子總平  
神永寧  
川島喜太郎  
勝屋弘義  
川島令次郎  
冠島恒夫  
鏡島寬三  
加藤誠平

吉田貫一  
吉田正徳  
吉田春太郎  
吉田文徳  
高橋隆超  
高橋純昇  
橋置良平  
玉置龍太郎  
竹階義亮  
高階研一  
龍山義亮  
大正大學  
宗教研究會  
武島又次郎  
田中東三郎  
田中清之  
田中阿磨  
團島伊能  
武井左京  
倫美浩  
田中久三郎  
田邊勝哉  
田中清純  
多田武幹  
伊達巽

野村八良  
倉林香三  
葛原吉久  
九里愛雄  
倉澤建雄  
九里道守  
桑田貞彦  
黒田源六  
黒住宗和  
來島正時  
口羽義教  
久芳新作  
クハラウス

野村八良  
倉林香三  
葛原吉久  
九里愛雄  
倉澤建雄  
九里道守  
桑田貞彦  
黒田源六  
黒住宗和  
來島正時  
口羽義教  
久芳新作  
クハラウス

高橋徳衛  
武智直道  
武居熱血  
田邊宗英  
高木武勇  
多木久太郎  
辰馬悦藏  
高田益吉  
高橋宗太郎  
高松四郎  
高野正治  
田中義能  
田中經太郎  
多田慶明  
田村晴胤  
田中政秀  
大社教本院  
立澤孝雄

高橋徳衛  
武智直道  
武居熱血  
田邊宗英  
高木武勇  
多木久太郎  
辰馬悦藏  
高田益吉  
高橋宗太郎  
高松四郎  
高野正治  
田中義能  
田中經太郎  
多田慶明  
田村晴胤  
田中政秀  
大社教本院  
立澤孝雄

高橋徳衛  
武智直道  
武居熱血  
田邊宗英  
高木武勇  
多木久太郎  
辰馬悦藏  
高田益吉  
高橋宗太郎  
高松四郎  
高野正治  
田中義能  
田中經太郎  
多田慶明  
田村晴胤  
田中政秀  
大社教本院  
立澤孝雄

高橋徳衛  
武智直道  
武居熱血  
田邊宗英  
高木武勇  
多木久太郎  
辰馬悦藏  
高田益吉  
高橋宗太郎  
高松四郎  
高野正治  
田中義能  
田中經太郎  
多田慶明  
田村晴胤  
田中政秀  
大社教本院  
立澤孝雄

H. Zachert  
永野修身  
夏目五郎兵衛  
中村直勝  
中野貞等  
永田貞雄  
中西駒彦  
南雲親一郎  
中川末吉  
中川小十郎  
中島忠利  
中野博實  
内藤博嗣

永野修身  
夏目五郎兵衛  
中村直勝  
中野貞等  
永田貞雄  
中西駒彦  
南雲親一郎  
中川末吉  
中川小十郎  
中島忠利  
中野博實  
内藤博嗣

永野修身  
夏目五郎兵衛  
中村直勝  
中野貞等  
永田貞雄  
中西駒彦  
南雲親一郎  
中川末吉  
中川小十郎  
中島忠利  
中野博實  
内藤博嗣

永野修身  
夏目五郎兵衛  
中村直勝  
中野貞等  
永田貞雄  
中西駒彦  
南雲親一郎  
中川末吉  
中川小十郎  
中島忠利  
中野博實  
内藤博嗣

浦野五郎  
浦野克彦  
Mr. G.B. Warner  
浮村直彦  
宇都卷隆寛

浦野五郎  
浦野克彦  
Mr. G.B. Warner  
浮村直彦  
宇都卷隆寛

浦野五郎  
浦野克彦  
Mr. G.B. Warner  
浮村直彦  
宇都卷隆寛

浦野五郎  
浦野克彦  
Mr. G.B. Warner  
浮村直彦  
宇都卷隆寛

植木直一郎  
植木謙英  
植松安  
浦谷熊吉  
梅田義彦  
宇野圓空  
内田金二  
宇田川昇

植木直一郎  
植木謙英  
植松安  
浦谷熊吉  
梅田義彦  
宇野圓空  
内田金二  
宇田川昇

植木直一郎  
植木謙英  
植松安  
浦谷熊吉  
梅田義彦  
宇野圓空  
内田金二  
宇田川昇

植木直一郎  
植木謙英  
植松安  
浦谷熊吉  
梅田義彦  
宇野圓空  
内田金二  
宇田川昇

野村八良  
倉林香三  
葛原吉久  
九里愛雄  
倉澤建雄  
九里道守  
桑田貞彦  
黒田源六  
黒住宗和  
來島正時  
口羽義教  
久芳新作  
クハラウス

野村八良  
倉林香三  
葛原吉久  
九里愛雄  
倉澤建雄  
九里道守  
桑田貞彦  
黒田源六  
黒住宗和  
來島正時  
口羽義教  
久芳新作  
クハラウス

野村八良  
倉林香三  
葛原吉久  
九里愛雄  
倉澤建雄  
九里道守  
桑田貞彦  
黒田源六  
黒住宗和  
來島正時  
口羽義教  
久芳新作  
クハラウス

野村八良  
倉林香三  
葛原吉久  
九里愛雄  
倉澤建雄  
九里道守  
桑田貞彦  
黒田源六  
黒住宗和  
來島正時  
口羽義教  
久芳新作  
クハラウス

W. Gundert  
倉賀野爲男  
窪田静太郎  
栗原廣一郎  
香掛正一  
熊本縣神職會

W. Gundert  
倉賀野爲男  
窪田静太郎  
栗原廣一郎  
香掛正一  
熊本縣神職會

W. Gundert  
倉賀野爲男  
窪田静太郎  
栗原廣一郎  
香掛正一  
熊本縣神職會

W. Gundert  
倉賀野爲男  
窪田静太郎  
栗原廣一郎  
香掛正一  
熊本縣神職會

山下東三郎  
安満飲一  
山下龜三郎

山下東三郎  
安満飲一  
山下龜三郎

山下東三郎  
安満飲一  
山下龜三郎

山下東三郎  
安満飲一  
山下龜三郎



金木金  
村原  
孝定利  
徹三道

ゆ

湯淺竹之助  
由利正通

め

J.W. T. Mason  
新明治立圖書館

み

三井高陽	水谷團治	宮原誠之進	三井義重	水崎左三郎	宮崎萬次郎	三崎幹一郎	三戸祥之助	宮地詰宗一	御地直清勇	宮地久衛	溝口駒造	三田俊次郎	三上義夫	宮坂光次郎	三井清一郎	宮井高公	三川仁藏	三上參次
修養園本部	柴田直胤	神宮皇學館	莊司益吉	白石元治郎	白鳥庫吉	篠田融						宮本正尊	三河豐之助	皆川治廣	宮武正道	宮城武夫	御巫清白丸	宮重丸

下村正太郎	清水信良	島連太郎	陣内不可止	據入亮忠	據澤角太郎	清水歸一	神榮宣郷	志岐智豊	新間智啓	下村育英財團	島村幡彦	澁澤敬三	島田隆太郎	島村春道	芝田徹心	樹下快淳	幣原坦
-------	------	------	-------	------	-------	------	------	------	------	--------	------	------	-------	------	------	------	-----

廣田盛胤	廣田豐	平田盛胤	菱沿清太郎	弘田由己子	平泉澄	檜山成敏	平山暢邦	廣野三郎	久松潜一郎	平田貫一	平尾須美雄
------	-----	------	-------	-------	-----	------	------	------	-------	------	-------

森村市左衛門	森田判助	森田實	望月信亨	諸熊八十太郎	森口奈良吉	諸橋宏	守谷正毅	森正毅	モランヂエール	Leon Julliot de la Morandiere	毛利元一	桃井定吉	毛利伊賀	望月健夫	森田卓郎
--------	------	-----	------	--------	-------	-----	------	-----	---------	-------------------------------	------	------	------	------	------

三十二

千家尊弘	關屋貞三郎	千家尊統	關野忠治	千家尊建	千家尊有	關口竹治	關口伊佐雄	千家尊宣	關口見玉之輔
------	-------	------	------	------	------	------	-------	------	--------

す

陶山喜六	杉山喜代美	角正方	J. B. Snellen	住田代藏	杉田榮三郎	杉谷房雄
------	-------	-----	---------------	------	-------	------

住友吉左衛門	杉谷泰山	鈴木孝雄	鈴木三七	スペンサー	S. R. Spencer
--------	------	------	------	-------	---------------

三十三

十二 財團法人明治聖徳記念學會寄附行爲（會則）（昭和十三年）  
（昭和十三年）

第一章 起原及名稱事務所

第一條 本會は明治の産代を永遠に記念するに萬古不易の真理研究を以てせむとして起れる日本學會にして財團法人明治聖徳記念學會と稱す

x

x

x

x

x

x

x

第二條 本會は事務所を東京市小石川區丸山町十一番地に置く

前項の事務所は理事會の議決に依り之を變更することを得

第二章 目的並に事業

第三條 本會は主として人文史的學問の新研究に照して本邦思想の特色と我が建國精神の大本と

を闡明し我が國體の精華と日東の文明とを内外に顯彰し以て自から知るに力むると同時に日本文明の真相を世界の學界に紹介して彼我の精神的理會に資せむことを期す

第四條 前條の目的を達せんが爲本會は左の事業を行ふ

一、本會研究所の經營

二、内外文を以てせる研究結果の發表及本會の目的實現に必要な出版物の刊行並に各

種研究上の會合

三、講演會の開催

四、前各號の外理事會に於て特に必要と認めたる事項

前項第一號第二號は主として研究所の事業として之を行ふ

第五條 本會の研究所に關する規定は理事會の議決に依り之を定む

第六條 本會の特別功勞者に對しては理事會の議決に依り本人と合議の上特別講演會を開催して其の功勞を社會に表彰することあるべし

第七條 有志者より社會人心開發の目的を以て特に經費を寄附し本會の目的に添へる通俗講演會を開催せん事を請ふときは理事會の議決を経て本會は之に應諾することあるべし

第三章 資産 及 會計

第八條 東京市小石川區丸山町十一番地加藤玄智方明治聖徳記念學會は從來諸有志の寄附に係る現有財産金九千百拾七圓を本會に寄附し以て本會設立の基礎と爲す

前項金額の内九千八拾七圓を基本財産とし剰餘は經常費に充て基本財産は將來有志者の寄附により之を金貳拾萬圓以上に増加せんことを期す

基本財産は評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得るに非ざれば處分することを得ず

第九條 本會の目的を翼賛して寄附せる金員有價證券貴重なる動産又は不動産は理事會の議決に依り之を基本財産に編入す但し其の目的を指定したるものは其の用途に充つ

第十條 不動産以外の基本財産は確實なる銀行又は郵便官署に預け入れ若は確實なる有價證券に

換へて保管することを得但し時宜に依り評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得て不動産を購入することを得

前項以外の財産は理事會の議決を以て定めたる方法に依り之を管理處分す

第十一條 本會の會計年度は毎年一月一日に始まり十二月三十一日に終る

第十二條 本會の豫算は毎年評議員會の議決を経て之を定め決算は其承認を得るものとす

第十三條 本會の經常費は左の諸收入を以て之に充て剰餘金あるときは基本財産に編入す但し必要ある場合には翌年度の經常費に繰越すことを得

一、第八條第二項の剰餘金

二、基本財産より生ずる收入

三、會 費

四、特に經常費として寄附したる金員

五、其他の收入

第四章 會 員

第十四條 本會の會員は正會員、特別會員、終身會員及協賛會員とす

第十五條 正會員は毎年會費金貳圓を本會に前納し邦文紀要の配附を受け臨時本會にて刊行する内外文の出版物を特價を以て購入し且本會の講演會に出席することを得但し既納の會費は事情の如何に關らず之を還附せず

第十六條 特別會員たらんとするものは他の特別會員、終身會員又は協贊會員の紹介を以て入會し毎年會費金三圓を納附し邦文紀要及其の特別號の配附を受け臨時本會にて刊行する内外文の出版物を特價を以て購入し且本會の講演會に出席することを得但し既納の會費は事情の如何に關らず之を還附せず

第十七條 終身會員は左の各號に該當する者より成り終身會費を徴せず其待遇は凡て特別會員に同じ

一時に金五拾圓を納附し理事會の承認せる者  
金五拾圓以上又は該金額以上に相當せる財産を寄附し理事會の承認せる者  
理事會にて特に推薦せる者

第十八條 協贊會員は本會の事業を翼賛せる斯道の専門家若は社會の名望家にして理事會之を推薦し本會の講演會に出席し本會にて刊行せる出版物の寄附若は特價配附を受くるものとす

協贊會員は會費を要せずと雖も正會員、特別會員又は終身會員を兼ねる者は其會費は當該會員の規定に従ふものとす

第十九條 會員にして其義務を怠り若は本會の體面を汚すものは理事會の議決を経て之を除名す

第五章 役 員

第二十條 本會に理事五名以上七名以内、監事二名、評議員若干名を置く

第二十一條 本會に會長一名を置き理事の互選とす

第二十二條 會長は本會を代表し理事會の定むる所に依り事務を處理す

第二十三條 理事は理事會の定むる所に依り事務を分掌し會長事故ある時は理事中より互選に依りて其の代表者を定む

第二十四條 理事及監事は評議員會に於て協贊會員、特別會員及終身會員中より之を選任するものとす

第二十五條 評議員は協贊會員、特別會員及終身會員中より理事會に於て之を推薦す

第二十六條 理事監事及評議員の任期は五ヶ年とす但し重任を妨げず

第二十七條 補缺會員の任期は前任者の殘任期間とす

第二十八條 理事及監事任期満了の場合に於ても其の後任者の就職する迄は尙其職務を行ふものとす

第六章 評議員會及理事會

第二十九條 評議員會は毎年一回之を開く但し理事會に於て必要ありと認めたるときは臨時評議員會を開くことあるべし

第三十條 評議員會の招集開閉は會長之を掌る

第三十一條 評議員會の議長は出席評議員の互選を以て之を定む

第三十二條 評議員會に於て行ふ理事及監事の選舉は有効投票の多數を得たる者を當選者とす  
得票同數なるときは抽籤を以て之を定む

第一項の選舉は會議の議決を以て指名推薦に依ることを得

第三十三條 評議員會の議事は出席者の過半數を以て之を決す可否同數なるときは議長の決する所に依る

第三十三條 理事會は必要に應じ隨時開會す

第二十九條第二項第三十條乃至第三十二條の規定は之を準用す

第七章 雜則

第三十四條 本寄附行爲の施行に必要な細則は理事會の議決に依り之を定む

第三十五條 本寄附行爲は評議員會に於ける出席評議員四分の三以上の同意を得主務官廳の認可を受くるに非ざれば之を變更することを得ず

第三十六條 本法人創立當初の理事は設立者之に當り監事は設立者に於て之を推薦す  
前項役員任期は法人設立許可の日より起算するものとす

x x x x x

十二 入會案内

本會は 明治天皇不朽の聖徳を永遠に記念せんが爲めに本邦精神文明の根本的研究より來る萬古不磨の眞理闡明を以てせんとして起れる學會にして會員組織を以て成り其研究結果は毎年本會より直接發行せる内外文又の紀要文は單行本に於て之を發表す特に本年度より紀要中に學者の研究上必要の珍籍にして單に寫本にて傳はるのみにて公刊に至らず從て之を傳寫せんとするも原本は容易く得難く又之を得るも謄寫の費用割合に嵩み個人としては意に任ぜざるの憾ある稀觀書を選み文獻蒐集に掲載するを以て本紀要所持者は知らず識らずの中に這種典籍の収集を爲すことを得るの便あり右登載完成済のものには田安宗武著古事記詳説並別記、京都吉田子爵家古寫古語拾遺嘉祿本奈佐勝美の疑齋及古語拾遺攷異、本居宣長の疑齋辨、本居宣長講演、田中大秀筆記の古語拾遺講説等あり、今又、釋袋中の「琉球神道記」自筆本及坂士佛太神宮參詣記の度會常彰著纂註等を校訂して紀要各冊の別冊として會員に班布す斯くの如きは全く前記企圖の實現せられしものとす學界諸彦の此際會員加名に由りて本紀要を利用し以て研鑽に資せられんことを希望す。

(正會員は年額會費貳圓、特別會員は年額參圓前納、終身會員は一特前納にて金五拾圓以上)

文學博士加藤玄智編

神道書籍目錄 全一冊

菊版約六七〇頁 定價金十三圓五十錢

財團法人明治聖徳記念學會發行

購入特權

- (一) 協賛會員、終身會員、特別會に限り當分一部金拾壹圓也
- (二) 正會員には一部金拾貳圓五拾錢也

昭和十四年二月十五日印刷  
昭和十四年二月二十日發行

編輯兼 財團 東京市小石川區丸山町十一番地  
發行者 法人 明治聖徳記念學會

振替口座東京二七〇八一番  
電話大塚四〇二七〇番

右代表者 東京市豊島區巢鴨三丁目三十番地の一  
松 下 松 平

印刷人 東京市本郷區丸山新町十一番地  
椎 名 寛

印刷所 東京市本郷區丸山新町十一番地  
島 田 印刷所  
電話小石川四一三九一

391  
511



終

